

'18.3

毎月1回20日発行 定価 1部60円
発行人 兵庫県商工会連合会
代表者 志智宣夫
発行人住所 神戸市中央区花隈町6番19号
☎078(371)1261(代)☎650-0013
http://www.shokoren.or.jp/
編集人 足立 誠
印刷所 有限会社 浜田デザイン写植
会員の購読料は会費に含んでおります

第727号

兵庫県 商工連会報

(題字は井戸知事)

Hyogo Prefectural Federation of Societies of Commerce and Industry

平成29年度 スローガン

商工会は行きます 聞きます 提案します



▲鮮魚 魚利の前にて代表の大橋進氏

Contents

■ 県連合会Letter 2~3頁

- ・経営サポート力向上研修会
- ・経営革新・IT活用研修会
- ・キャリアアップ助成金
- ・同友会賀詞交歓会
- ・商工会青年部・担当職員合同研修会

■ あなたのまちの元気な企業(芦屋市) 4頁

■ 商工会Letter 5~6頁

- ・新商品「モロヘイヤポタージュース」完成 (上郡町)
- ・ニッポン全国鍋グランプリ (姫路市)
- ・太子町企業市民制度 (太子町)
- ・企業間交流促進による競争力強化に向けて (宍粟市)

魚料理をもっと身近に!
鮮魚 魚利 (芦屋市)

芦屋市の阪急芦屋川駅から歩いて数分の場所に位置する芦屋山手サンモール商店街の中で営業をしている鮮魚 魚利。およそ34年前に創業し、現在は大橋進氏が2代目として事業を展開している。

近年、魚離れが深刻化しており鮮魚店は苦戦を強いられている。そのような中、魚利では大橋氏が前職のホテル調理部門で鍛えた腕を活かして「ととく」や「芽出鯛 芦屋鯛めし」など、魚が苦手な人でも美味しく食べていただけるような商品開発を積極的に行っている。(詳細は4頁)

〈職員研修〉 経営サポート力向上研修会

県連合会は、8月31日、1月11日に兵庫県中央労働センター、9月29日に中小企業大学校関西校で「経営サポート力向上研修会」を計3回開催し115人が参加した。

福満「グリー」ヒロユキ氏を講師に迎え、販促広報の専門家が実践している事業支援術と題し、「売れている企業の共通のマーケティング法則」「AIDMAの法則」等について学んだ。

また支援事例として市場に出ることも少ない雑魚を使用し、銘魚と名づけ、売上げを伸ばしている事業所の紹介もあった。

参加者からは、「事業所支援に役立つ内容であった」、「法則を活用していきたい」などの感想があった。



▲熱心に聴く受講生たち

〈職員研修〉 経営革新・IT活用研修会

県連合会は、11月7日に兵庫県中央労働センター、1月16日に中小企業大学校関西校でセキュリティ対策の指導方法、ITを活用した新規事業の展開、販路開拓の手法について学ぶことを目的に経営革新・IT活用研修会を開催し、両日で45人が参加した。



▲セキュリティの重要性を学ぶ

研修前半はIPA技術本部セキュリティセンター普及グループ主任研究員 小門寿明氏を講師に、実務における情報セキュリティ対策の勘所と指導方法について、またIPAの中小企業支援策・対策支援ツールの紹介がされた。研修後半では、(特非)コミュニティリンク代表理事で、県連合会情報発信支援員でもある中西雅幸氏を講師に、ICTのトレンドやSNSの現状・消費者動向などについて学んだ後、業務効率化に向けたIT導入の支援について学んだ。

平成30年度以降のキャリアアップ助成金について

～拡充などの主な変更(予定)のご案内～

キャリアアップ助成金とは、「有期契約労働者、短時間労働者、派遣労働者といったいわゆる非正規雇用の労働者(以下「有期契約労働者等」という)の企業内でのキャリアアップ等を促進するため、これらの取組を実施した事業主に対して助成をするものです。

4つのコースについて、拡充や整理統合などの内容変更を行う予定です。

※平成30年度予算の成立及び雇用保険法施行規則の改正が前提のため、今後、変更される可能性があることにご注意ください。

①正社員化コース

- ・1年度1事業所あたりの支給申請上限人数を20人に拡充
- ・支給要件の追加。

(1)正規雇用等へ転換した際、転換前の6ヶ月と転換後の6ヶ月の賃金総額(※)を比較して、5%以上増額していること。

※賞与や諸手当を含む総額。ただし、諸手当のうち、通勤手当、時間外労働手当(固定残業代を含む。)

(2)有期契約労働者からの転換の場合、対象労働者が転換前に事業主で雇用されていた期間を3年以下に限ること。

②人材育成コース

- ・人材開発支援助成金に統合。

③賃金規定等共通化コース

- ・共通化した対象労働者(2人目以降)について、助成額を加算

④諸手当制度共通化コース

- ・共通化した対象労働者(2人目以降)について、助成額を加算。
- ・同時に共通化した諸手当(2つ目以降)について、助成額を加算。

お問い合わせと申請手続

- 労働局またはハローワーク
- 支給申請窓口

—ひょうごの中小企業を補償でサポート!—
商工会の共済事業として会員の福利厚生をお手伝いする



〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28
兵庫県中央労働センター4階
☎078-361-8080 www.ken-kyosai.or.jp

インパルスゲートで青年部の活性化を学ぶ

～ 商工会青年部・担当職員合同研修会（県青連）～

県商工会青年部連合会（中西孝之会長）は1月30日、神戸市・ラッセホールにおいて商工会青年部・担当職員合同研修会を開催した。県内商工会青年部役員並びに青年部担当職員が一堂に会し、それぞれの地域が抱える課題等を部員・事務局双方が情報共有し、切磋琢磨しあうことで、新しい時代に向けた事業運営に活かすことを目的としている。25青年部から部員30名、担当職員20名が参加し、商工会青年部活性化研修「インパルスゲート」を受講した。



▲講師の(株)ホライズンワークス代表取締役 林真人氏

本研修は講師である株式会社ホライズンワークス 代表取締役の林真人氏が山梨県商工会連合会の経営指導員と共に開発したゲーム型の研修で、サイコロ

により決められた部員数と予算をもとに、部長として事業を企画し、反対意見のある部員に対してプレゼンテーションを行い、評価（得点）を競うもの。反対意見はランダムに決められ、その内容は「その日は消防団がある」や「休みの日ぐらいい家族サービスをしたくない」など現実味のあるものから「部長とはそりが合わない」、「部長はいつも口だけ」といった辛辣なものなど多種多様。

今回、全国商工会青年部連合会主催の都道府県リーダー研修会で実際に受講した中西会長並びに副会長から「是非兵庫県でも実施してみたい」という要望を受け実施に至った。

グループ分けでは、あえて所属商工会やブロックをバラバラにし、普段話す機会のない者同士を集めたが、最初から活発なプレゼンや意見が交わされていた。最後は、所属商工会やブロックの部員と担当職員がまとまり、理想の青年部運営のため何が必要なのかをまとめ報告し合った。

終始笑顔の絶えない研修となり、参加者からも非常に好評を得て、「是非うちの部でもやってみたい」という意見がいくつもあった。



▲真剣に研修に取り組む参加者達

商工会ネットワークの持つ可能性を探る

～ 第3回研修会・賀詞交歓会（同友会）～

県商工会青年同友会（安積進会長）は1月13日、神戸市・ホテル北野プラザ六甲荘において第3回研修会及び賀詞交歓会を開催した。経営者の集団として、多様な人脈やネットワークを活用し、地域の振興・発展や雇用問題等に寄与する商工会活動の活性化と地域社会の発展に貢献することを目的として毎年開催しており、県内から20名が参加した。



▲研修会の狙いと期待を述べる安積会長

研修会では、「商工会ネットワークを活用した輸出の共同化く小さな企業の大きなネットワーク」と題して、全国商工会壮青年部連合会会長の亀山彰氏と茨城県銚田市商工会事務局長の井川雅彦氏を講師に迎え、今年度UAE、ベトナム、アメリカの3か国で実施した商談会の事業概要と事業報告並びに今後の展開に

ついて講演を行った。

本事業の特徴は、1事業所1商品からでも出品が可能であること。全国の商工会ネットワークを駆使し多くの商品を集め、まとめて輸出するからだ。さらには、出品商品の引き合いも多く、中には既に受注に繋がった商品もあり、成果が期待できる。



▲亀山会長(左)と井川事務局長(右)

質疑応答では、次年度以降の具体的な事業スケジュールをはじめ多くの質問が上がり、事業への関心の高さが窺えた。研修会後は、講師の2名も交えて、賀詞交歓会が開かれ、終始賑やかな雰囲気となった。

3月のこよみ

- 6日(火) 人事課題等検討委員会
- 8日(木) 人事調整委員会
第3回人事管理委員会
- 16日(金) 第2回総務委員会
第5回事業委員会
- 22日(木) 平成30年度若手後継者
等育成事業・広域商工業
振興対策事業審査委員会

- 23日(金) 第4回正副会長会
- 27日(火) 理事会・臨時総会

4月のこよみ

- 23日(月) 第51回県女性連通常総会
- 24日(火) 第51回県青連通常総会

あなたのまちの元気な企業

街のお抱え料理人を目指して

鮮魚魚利(芦屋市)

『モノ売り』から

『コト提案』に

「第3回ひょうごいいね!お店表彰」で優秀賞を受賞した「鮮魚魚利」同賞は兵庫県が魅力と個性あふれる優秀店を表彰するもので、こだわりのサービスや地域の課題に積極的に取り組む地域密着型の店舗に贈られる。

魚利は開店当初からお客様と直接会話をし、どのような商品を求めているのかを丁寧にヒアリングする経営スタイルを一貫している。例えば離乳食を作りたいお客様のために骨を抜いた切り身を提供したり、近隣であれば配達にも対応する。

「一対一で話すからこそ、お客



▲店の前にはその日の朝に仕入れた新鮮な魚が並ぶ

様がどういう状況でどのような商品を求めているのか分かりません。それに対してこちらがどのような提案を出来るかによってお客様の満足度は格段に変わってくると思います。『モノ売り』から『コト提案』することによってお客様のお役に立てる店づくりを考えています。こう話すのは2代目店主である大橋進氏である。大橋氏は以前ホテルの調理人として働いていたが、家業を手伝うため、実家に戻り、約13年前に事業を引き継いだ。ホテルの調理人時代に培われた技術で、鮮魚だけでなく惣菜の販売や仕出し弁当も提供している。ホテルの料理人から転じて、街のお抱え料理人として地域のお客様に貢献できるように日々努力している。

魚離れ解消のために

大橋氏は贈答品の魚や、釣りに上げた丸々一匹の魚でも店に持ち込んだものは捌く。お客様と距離が近いからこそできるサ-

ビスで、少しでも魚を食べて頂く機会の提供を目指している。また商店街内の保育所と連携し園児の給食用食材の提供や、魚の下ろし方、包丁の使い方等の食育に関するミニ教室を開催するなど、魚を身近に感じて貰うための活動に力を入れている。

また、近年増加している魚嫌いの人たちにも魚を食べるきっかけにして欲しいと「ととツケ」を開発した。これは魚利が毎月10日を「おととの日」と設定して新商品を販売しており、その企画の中で「ととツケ」を販売したところ「普段も販売して欲しい」との声が多数寄せられたため、定番商品となった。



▲ごにうとつ星ひよと
五選ばれたととツケ

ととツケはコロツケのミンチ部分にタイ、サワラ、ちりめんじゃこなどの地魚を使い、他の食材はコロツケと同じものを使うことでほんのり魚の味が感じられるように仕上げている。その他に即席鯛めしである「芽出鯛 芦屋鯛めし」も開発し、こ

の鯛めしと「ととツケ」は平成28・29年度「五つ星ひょうご」に選定される人気商品となった。

芦屋のグルメを街ぐるみで提供

大橋氏は現在、魚利が所属する芦屋山手サンモール商店会の会長を務めている。

「ハロウィンイベントの開催や桜まつりで商店会として出店するなどといった活動をしていきます。芦屋山手サンモール商店会には現在60軒の店があり、そのうち26軒が商店会に所属しています」さらに最近では商店街だけの活動に留まらず、芦屋市全体で活動出来ることを模索している。



▲各店一押しの商品で「街弁」を作られた

「以前部長をしていた関係で青年部での繋がりは深いですね。そこで知り合った人たちと商店街の垣根を越えて商品開発をしています。具体的には『駅弁』ならぬ『街弁』の開発です。各店一押しの商品、お肉屋さん

ハンバーグや鶏肉屋さんから揚げ、そして当店のととツケといった具合に各々選りすぐりの商品を持ち寄ってそれをひとつのお弁当にして販売をしています。芦屋市全体の活性化にもなりますし、何より『芦屋市にこんな美味しいものがあつたんだ』という発見に繋がると思うのです」

今後の展望

将来的には店を拡大したいという。

「店舗の規模が手狭と感じることが多々あり、大量発注のお弁当などは対応しきれず断ってしまいう場合もあります。さらにきめ細やかにお客様の要望に応えるためにも、店を拡大しなるべく希望にそった商品提供が出来る環境を作りたいですね」店と客との距離感を大切にしながら、大型店舗には提供できないサービスや武器に今後も新しい事業展開を続けていく。

【企業概要】

社名/鮮魚 魚利
代表者/大橋 進
住所/芦屋市西山町
3-10 ☎0797-31-8215
HP:
http://www.ashiya-
people.com/shops/
uotoshi/

異業種交流活性化支援事業 新商品「モロヘイヤポターージュスープ」完成

上郡町商工会

上郡町商工会(大崎基弘会長)は、異業種交流活性化支援事業の補助を得て、町の特産物であるモロヘイヤの商品開発に取り組み、「モロヘイヤふりかけ」に続く第2弾商品「モロヘイヤポターージュスープ」を開発した。

まず、モロヘイヤふりかけの製造を行っている商工会員事業所の「ナニワフード(株)」に開発・製造の協力を依頼した。1年目は2種類のポターージュタイプとお澄ましタイプの計3種類のスープを試作し、赤穂市にある関西福祉大学の学生を対象にモニター調査を実施した。その調査結果を踏まえ県連合会チーフアドバイザーでありフードコーディネーターの天野加佳子氏に指導を受けた結果、ポターージュタイプのスープが採用となった。



▲完成したモロヘイヤスープのパッケージ

がすっかり残った美味しいポターージュスープが完成した。

2年目は商品化に向けて本格的に始動した。現時点の試作品ではモロヘイヤの風味があまり感じられないといった指摘があり、対策としてモロヘイヤの分量を調整することにした。最終的には乾燥モロヘイヤの浮き身を加えたことで、モロヘイヤの風味

き、さらに上郡町の知名度を高めるために今後PR活動を進めていく。



▲ラジオ関西にてPR

今回使用しているモロヘイヤは、地元上郡高校園芸科の生徒が栽培・収穫した初摘み若葉のみを原料とし、また、製造も町内食品製造業社という「上郡町産」に拘った逸品といえる。商品完成後はPRに力を入れた。新聞やラジオ番組に取り上げられ、また国際フロンティア産業メッセや各種イベントにも出展し、来場者に新商品のPRを行った。

沢山の人に「モロヘイヤポターージュスープ」を味わっていただき、さら



全国の鍋自慢が姫路に大集合!

姫路市商工会

2005年から埼玉県和光市で開催されている「ニッポン全国鍋グランプリ」が2019年1月26日・27日に初めて西日本で開催される。場所は世界文化遺産・国宝姫路城がある姫路市に決定した。

この事業は、鍋を通じて地域食材や郷土料理、地域の食文化を発掘し、それを「地域ブランド」とすることにより地域の活性化を図ることを目的としている。

これまで和光市で開催された「鍋グランプリ」も、年々鍋参戦申込・来場者が増加してきたが、鍋参戦申込は東日本エリアが中心で、全国展開を図るべく一昨年より西日本地域での開催が模



▲鍋グランプリ2018優勝の和歌山県日高町「天然クエ鍋」

索されていた。

そして、「ひめじぐるめらんど」、「姫路食博」といった集客数10万人を超えるイベントを毎年開催し、過去に「全国菓子大博覧会」、「B-1グランプリ」といった全国規模の食のイベント開催実績があり、外国人観光客も多数訪れる姫路市に白羽の矢が当たった。

主催者である姫路市商工会(北村正和会長)は、関西ならではの「人情と人の温かさ」と「笑い」をコンセプトに掲げ、開催に向けての準備に着手しており今年の5月中旬を目途に募集を開始、兵庫県内はもちろん全国多数の地域からの参戦を期待している。



▲姫路開催決定・プレスリリースの様子

冬の風物詩である「鍋」は、日本全国に存在し、地域ならではの食材や調理方法、家庭ならではの工夫や食べ方等、古今東西にある有名無名の鍋料理は、寒さが身に染みる今日この頃、常に人の身も心も温めてくれる。

そんな「鍋」をテーマに日本全国の鍋が集結し、各々自慢の鍋料理で対決を行う。

地元伝来の鍋料理、わが家自慢の鍋料理、創作の鍋料理が一堂に会し、来場者の投票によりその年の「ご当地鍋日本一」を選出する、日本最大級の鍋料理コンテストとなる予定である。

太子町企業市民制度

太子町商工会

太子町商工会(高井國昭会長)は太子町と連携して今年度より「太子町企業市民制度」の認定を始めた。

企業市民とは、企業がその特色を活かして社会的な義務を負うことで、社会と連携を図ることが大切と考えられている。

そこで、太子町では「防犯・防災」、「まちづくり」、「環境保全」など「地域の社会活動」に取り組む企業や事業所を「太子町企業市民」として認定し、社会貢献活動を支援・推奨することで、企業・町民・行政が連携したまちづくりを目指している。認定の対象は、防犯・防災、



▲第1回 太子町企業市民制度認定式

青少年健全育成、社会福祉など7項目のなかで2項目以上該当する企業である。認定されると2年間有効で、太子町より認定証を交付している。毎年、4月と10月に募集し、町の審査会を経て認定され、今年度は27事業所が「企業市民」として認定された。



▲第2回 太子町企業市民制度認定式

太子町役場で行われた認定式では、町長から認定証を授与され、また、商工会長から認定プレートを授与され、認定を受けた企業は今後も継続して社会貢献に取り組んでいく決意を新たにしました。企業の社会的評価や信頼性を高める「企業市民」認定制度を今後も積極的に推進していく。

企業間交流促進による競争力強化に向けて

宍粟市商工会

宍粟市商工会(三渡圭介会長)は、12月2日に山崎文化会館において「しそウビジネスサポート」を宍粟市、西兵庫信用金庫との共同で開催した。

これは、企業間交流の促進や地域のものづくり力の一層の強化、他の出展事業所はもとより、地域住民や学生等に、自社の魅力を広くPRすること等が目的。

3回目の開催となる今回は、昨年以上の来場促進と、事業所PRの強化を目標とした。そのため、例年の取り組みに加え、出展事業所物販コーナーの設置や市外事業所の出展受入れ、市内工務店数社による職業体験コーナー等の同時開催を新たな取組みとして追加した。



▲職業体験をする子どもたち

また、9月には出展者等が神戸市で開催された「国際フロンティア産業メッセ」を視察。見分を広げ、出展方法を学ばなければ、事業所間交流の促進を図った。

34社による出展のほか、専門家による「経営相談会」、バイヤーを7社招聘した「個別商談会」も開催。販路開拓のみならず、各事業所の抱える問題解決にも取り組んだ。



▲賑わいをみせるブース

出展事業所からは「自社の魅力を再発見できた」「新しい話が良い方向に進んでいる」等、喜びの声が多数あった。次回以降も継続的に実施していきたいとしている。

確実にやるのはどこでもできる。確実に速くやるからこそ「価値」になる。

三井住友銀行
LEAD THE VALUE
三井住友フィナンシャルグループ

緑の募金にご協力をお願いします

緑の募金は地域の緑化活動への助成やボランティア団体への助成を行っています。ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振込をお願いします。

(春季募金運動期間) 3月1日～5月31日

- 郵便振込(手数料無料)
郵便の場合、公益社団法人兵庫県緑化推進協会に直接お問い合わせ下さい。専用の払込取扱票用紙をお送り致します。
- 銀行振込(振込手数料必要)
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所 普通 3198438
名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

◆お問い合わせは◆ 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-18 県林業会館内
TEL 078-341-4070 / FAX 078-341-4071
(公社)兵庫県緑化推進協会 URL: http://www.hyogo-green.net/